I 研究の概要

平成29年度 伊万里小学校 校内研究計画

研究主題

基礎・基本の定着と、自ら学ぶ児童生徒の育成（啓成中校区共通主題）

～ 算数科における「自分の考えを表現する活動」を通して ～（2年次）

1 主題設定の理由

知識基盤社会の到来や、グローバル化の進展など急速に社会が変化中、児童には、幅広い知識と柔軟な思考力に基づいて判断することや、他者と切磋琢磨しつつ異なる文化や歴史に立脚する人々との共存を図ることなど、変化に対応する能力や資質が求められている。また、現行の学習指導要領では、数学的な思考力・判断力・表現力の育成を図ることや、算数科で学んだことを生活や学習に生かしていくことがより重視されている。その際、式、図、表、数直線等を用いて考えたり、自分の考えを説明したり、互いに考えを伝え合ったりするなどの言語活動を充実することが求められている。

本校では、昨年度から「自分の考えを表現する活動」に重点を置き研究に取り組んできた。自分の考えを図、式、言葉で表現し、説明する活動である。1単位時間の授業において、基本的な学習過程（つかむ、見通す、さぐる、練り合う、振り返る）を組み、教師が「めあて」「まとめ」「振り返り」を意識しながら、指導にあたってきた。

平成28年度の全国学力・学習状況調査では、算数A・Bともに全国比を若干下回っていたが、12月の県学習状況調査では、算数科において4、5年生は県平均を上回っていた。特に、記述式の正答率が上昇し、無解答率も減少していた。しかし、計算式を使って答えを出すことはできても、その過程を筋道立てて説明したり、題意や条件に即した解答や文章を書いたりすることにはまだ課題は残る。

そこで、今年度もこれまでの実践や本校児童の実態を考慮し、「基礎的・基本的な知識・技能の獲得」「主体的に学習に取り組む態度の育成」「思考力・判断力・表現力の育成」を目指して問題解決型学習を軸に自分の考えを図、式、数、言葉などを使って表現し、学び合う学級集団をつくるような授業改善を行っていくことで児童の思考力・判断力・表現力を伸ばし、活用力の向上につなげることができると考え、本主題を設定した。

2 研究の目標

各学年の発達段階に応じた算数的活動を取り入れ、課題に対して基礎的・基本的な知識・技能を活用しながら自分の考えを表現し、互いの考えを比較し合う活動を取り入れた授業を展開していくことで、自ら学ぶ児童の育成をめざす。

3 研究の内容と方法

(1) 算数的活動を通して自分の考えを持ち、表現する場を設けた授業実践

ア 指導計画の中に「問題解決の場」「教えて考えさせる場」「習熟の場」を位置づける。

問題解決の場：自力解決や練り合いを深めることによって学ばせる授業

（「西部型授業」をベースに）

教えて考えさせる場：教師が基本的なことを教えた上で、理解させる授業

（「教えて考えさせる授業」の視点で）

習熟の場：ドリル的に反復させて習熟させる授業

イ 「問題解決の場」の授業において、基本的な学習過程（つかむ、見通す、さぐる、練り合う、振

- り返る)を組み、各学習活動場面の手立てを工夫する。
- ウ 「教えて考えさせる授業」において、各学習活動場面の手立てを探る。
 - エ 算数アンケートの実施と分析。
 - オ 問題提示や意見交流の場、確かめなど、学習過程におけるICT機器の効果的な活用を図る。
 - カ 全体授業研究会を実施し、全員が研究授業に関わっていく体制をつくり、授業の参観をし合うことで、授業力向上に努める。また、講師を招いて研究内容についての指導を受ける。

(2) 学習規律の確立

- ア 基本的学習習慣の確立。
- イ 算数への興味・関心を高める学習環境づくり。
- ウ 学習規律に係わるアンケートの実施と分析

(3) 家庭学習の充実

- ア 家庭学習の内容と方法の確立。
- イ 家庭学習に係わるアンケートの実施と分析
- ウ 「いまりっ子タイム」(朝のドリルタイム)の効果的な活用。